

桜蔭俳話会 十一月句会(第三六〇回)

平成二十九年十一月十八日(土)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

4点①小春日や延命否と書き遺す	才美	1点	燈ともして金屏の鶴あゆましむ	才美
4点①蔵壁の動く一点冬の虫	守	1点	安酒に託す時あり秋の宵	眞壽
4点 父は子の視界に確と銀杏散る	才美	1点	資格なき最終検査寒波来る	かほる
4点 歩いてても歩いてても野は罌雲	幸	1点	小春日や地蔵微笑む山之路	ヤエ子
3点 道埋む落葉砕きて山登る	ヤエ子	1点	銀行の裏口昏し結氷期	明美
3点 採血の血管逃げし冬薔薇	守	1点	百余年逝くヌマスギや秋の声	邦子
3点 静かなる表御座所の冬日かな	明美	1点	短日や庭師の半纏丸に蔦	ツル子
2点①図書館の万巻の書へ冬の雷	明美			
2点①隠しもつ色つむぎ出す紅葉山	才美			
2点①沼杉や惜しまれ伐採秋の暮	直子			
2点①小春日や裂きし師の天日干し	ヤエ子			
2点 小春日や天井の竜動き出す	友子			
2点 小春日や陽明門の迷ひ人	友子			
2点 登校前挑戦続く二重跳び	ヤエ子			
2点 一卓に母を語れば夜の長し	才美			
2点 残らざる職種のいくつ冬に入る	明美			
2点 ざつくりと熊の爪痕杉古木	守			
2点 静かなる町を案内す赤蜻蛉	邦子			
1点①木枯は家路にせかす母のよう	直子			
1点①小春日の柿の数ほど小鳥来る	ツル子			
1点①不条理の仮面かぶりし冬の街	守			
1点 すそ分けの黒土光る小蕪かな	ヤエ子			
1点 小春日や骨董市の褒め上手	才美			
1点 小春日や都庁のランチたぬきそば	かほる			
1点 絵本からもらふ翼よ冬銀河	才美			
1点 手入れせぬ恥らふ心今日の菊	邦子			
1点 人間の壊れてゆけり冬紅葉	守			
1点 秋灯や強きおのこを返上す	眞壽			
1点 職人のゼロサム社会神の留守	かほる			
1点 秋あかね探せど姿無き高原	幸			
1点 紅葉山ゆつくり動く雲の影	ヤエ子			
1点 冬すみれまだ見ぬ子へのラブレター	才美			
1点 湯ざめして健康番組見てみたり	明美			
1点 銀杏や透きし緑の飯の中	ヤエ子			
1点 冬の旅山低く見ゆ二階席	かほる			
1点 人声の潮騒めきぬ冬障子	才美			
1点 熊笹に混じる紅葉アートのかな	ヤエ子			
1点 雪かぶる北岳小屋や谷こだま	幸			

※ 立冬や大根おでん酒香る

喪の服のほつれの少し小六月	守			
竜鳴くを待つ耳数多堂冷ゆる	友子			
半日を庭に楽しく菊いじり	邦子			
文化の日義兄の叙勲新聞に	直子			
指に来て尻尾震はす秋茜	ヤエ子			
小春日や追ひ越されたるハイウエイ	守			
踏みしむる北の大地や七竈	守			
落葉時八割捨てる同居かな	かほる			
清里の栄華の跡や紅葉燃ゆ	幸			
秋刀魚焼き認知症予防コーラスへ	直子			
耕運機高まる音の暮早し	ツル子			
棟茅の傷み始めし雪の里	明美			
携帯で病名調べ冬支度	直子			
山歩きの醍醐味知りぬ返り花	友子			
愚痴を言い己蔑む秋の暮	眞壽			
冬すでに木道かくす原野かな	ツル子			
歴代の院殿の墓椎木の実	幸			
栗をむく包丁さばき友に聞く	直子			
過疎となる山里続き柿の秋	幸			
サクサスの音響く秋天スタジアム	ヤエ子			
咲くを待つ人には遅し菊の花	邦子			
立木仏に籠る木の精冬眠す	友子			
死神の影のよぎりし冬の門	守			
幾年の深し枯野を進み行く	ツル子			
おもてなし問題霞む今年の冬	直子			
天気予報マフラー外す小春日よ	直子			
送別会愚痴は言うまい秋の宵	眞壽			
御用邸の川ゆるゆると紅葉浮く	友子			

東京の五疊の部屋に冬の月	明美
唐突な訃報のメール霜の花	守
新幹線越後の平野切断す	かほる
深酒が翌日残る秋の朝	眞壽
宰相の月見の酒や司牡丹	幸
巫女の振る鈴ゆつたりと留守の宮	友子
人に旅あり風に旅あり小春	才美
尾花揺れ遠い昔が目に浮ぶ	直子
白鳥の庄内平野狭きかな	かほる
(欠席投句 古野明美、京林眞壽)	

「事務局からお知らせ」

○十二月句会

十二月二十四日(日)、午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。
兼題は「蜜柑」。

○一月句会

一月二十八日(日)、午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。

○二月は、句会は休みです。